

2021年6月1日

Internet Corporation for Assigned Names and Numbers
ATTN: Board of Directors
12025 Waterfront Drive, Suite 300
Los Angeles, CA 90094-2536
USA
新 gTLD 担当理事 様

東京都中央区新川 1-3-21
BizSmart 茅場町
Com Laude 株式会社
代表取締役
村上 嘉隆

新 gTLD 次回申請に関して

私、Com Laude 株式会社（Com Laude グループ）代表取締役の村上は、2012年3月25日14時30分（東部標準時）（日本時間2021年3月26日4時30分）より開催された ICANN70 のパブリック・フォーラムにおいて、新 gTLD 次回申請に関する以下の質問をさせていただきました。

質問内容

「新 gTLD 申請の第 1 ラウンドでは、日本から 70 を超える申請がありました。新 gTLD 次回申請検討ワーキンググループ（New gTLD Subsequent Procedure Policy Development Process Working Group：以下 SubPro）は、第 1 ラウンドでの実績を 5 年に渡り精査し、係る方針の変更について提言書を提出しました。これまでも、新 gTLD 申請の第 2 ラウンドの開始時期に関して、複数の国内企業より弊社に問い合わせが入っております。ICANN の理事会では、SubPro より提出された提言書の確認を、運用設計フェーズ及び、実装レビューチームがいつ頃までに完了できると見込んでおられるでしょうか。次のラウンドで新 gTLD の申請を検討している企業にとっては、事前に申請開始時期を把握しておくことが、戦略的に計画を立てる上で非常に重要となります。ブランド、都市、コミュニティなどが新 gTLD 運用に関する計画を進めるにあたり、ICANN 理事会より今後のスケジュールについて何らかのコメントを頂く事は可能でしょうか。スケジュールの見みだけでも情報を共有いただければ、新 gTLD 申請を検討する企業の意思決定に役立つことでしょうか。ありがとうございました。」

2012 年の新 gTLD 申請第 1 ラウンドにおいて、日本からは合計 71 件の申請があり、その内 53 件はドットブランドでした。弊社にも複数の企業より新 gTLD 申請の第 2 ラウンドを求める声が寄せられています。これは、ドットブランドがデジタル戦略の鍵となる要素であり、コントロールの強化、革新的なプラットフォームの提供、そして知的財産の保護になると考えているからです。

弊社では過去 6 か月に渡り、ドットブランドを運用する利点や特徴に関して、以下の各産業界の責任者と意見交換や協議を続けております。

- 銀行・保険等の金融機関
- 医薬品
- メディア
- スポーツ・エンターテインメント業界 等

各社との一連の協議により、国内の多くの企業がドットブランドを所望していることは分かっていますが、競合他社との申請における攻防をリスクと捉え、申請の意図があったとしてもそれを事前に外部に表明する企業は少ないないでしょう。2012年ラウンドの一例を挙げると、日本の大手企業であるキャノン株式会社は、ドットブランドの申請表明をした数少ない企業の一社でしたが、実際には600件以上のドットブランドの申請がありました。

業界におけるレジストリ、レジストラ間の統合は著しく、ICANNによる健全な競争及び、幅広い選択肢を継続してプロモーションすることが重要であると考えます。ドットブランドは、侵害またはその可能性があるドメインネームを保持する事はありません。正規のコンテンツや商品、役務を提供する信頼できるオンライン上の標識(=ドメインネーム)として社会に貢献出来るでしょう。

日本ではICANNがSubProの提案を早期に検討いただき、新gTLD申請第2ラウンドをできる限り早くに推し進めることができるよう願っております。

以上